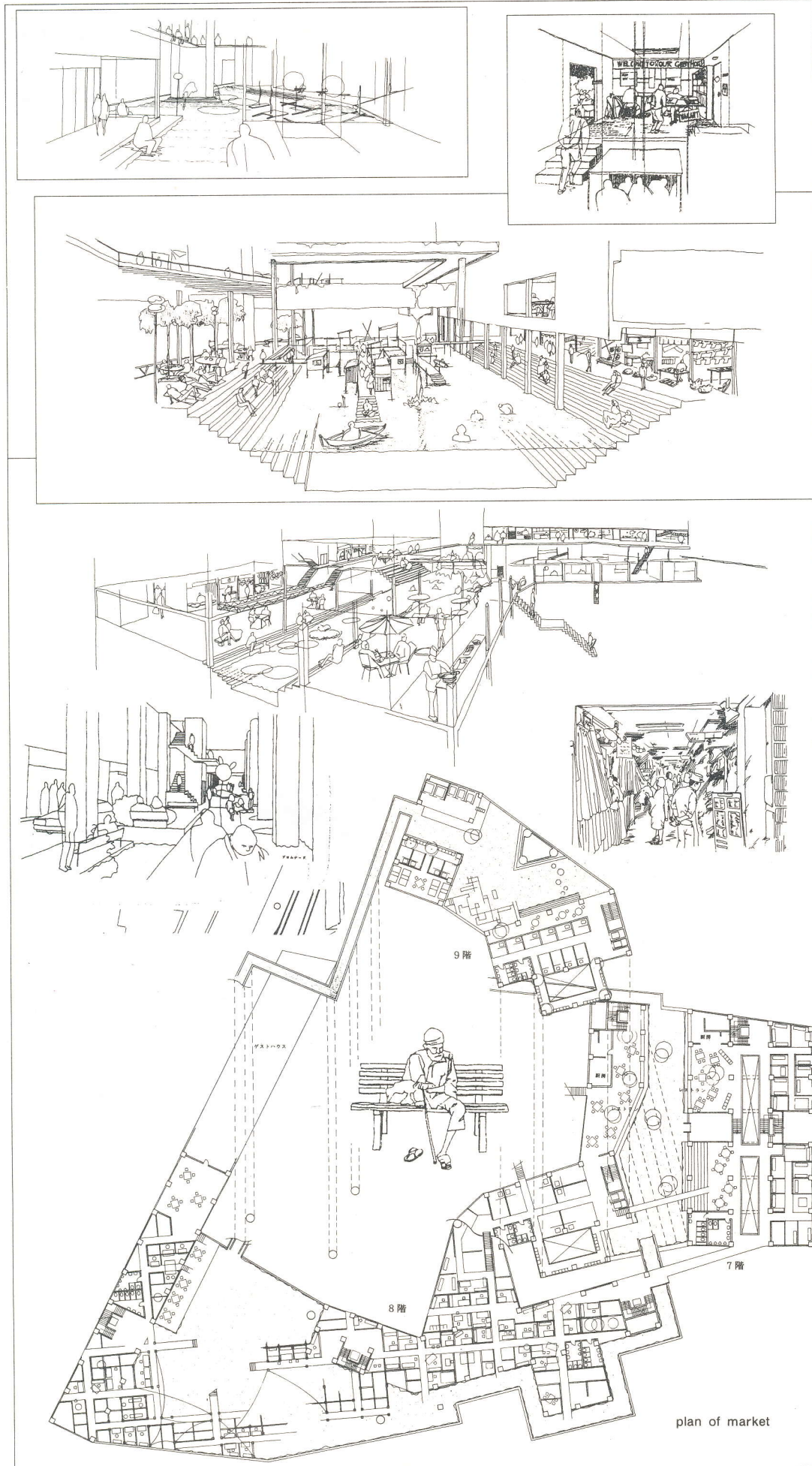


1990年度卒業設計(4年生)優秀作品より  
Outstanding works by graduating  
seniors of 1990



今年度の卒業設計作品をみて一般的に感じたことを列記すると下記のとおりでです。

①図面について/図の表現が不適切で読みにくい。画面のレイアウトが悪い。パースや色が少ない。図面密度がうすい。字が小さく読みづらい。(私は老眼ではない)。詳細図がない。

②口頭説明について/前提部分の一般論が下手で、画一的。面白くないし、わかりにくい。その意気込みのわりには課題の設定に時間ばかりかかって、実際のワークにあまり時間がかかっていない。皆がきまって同じ用語を羅列する。たとえば、「都市の」、「複合的」、

## 水のある街

City of abundant water

小林茂雄(藤井研究室)  
Shigeo Kobayashi(Fujii lab.)

最近の大都市では、住空間とそれ以外の空間が分離されている。コミュニティーを目的とした都市の巨大ショッピングアーケードや屋内空間も、逆に隣接する地域の街路や広場のアクティビティを弱める働きをする。つまり、都市の中の目立った活動は、視界から消えて建業内部に分散して存在する。

他のアジアの街は、街自体が生きている感じがするのに、日本の街は、人間は生きているが街は死んでいるような気がするのとはきっとそういうことだろう。

今回の設計では自由ヶ丘駅周辺に、日本でなくなりつつあるこの「アジア的な街」をつくることにした。ゲストハウスとマーケットを中心とする高層建築が、内に開かれた外部のオープンスペースをもち、そこに水による豊かな自然環境をつくることでさまざまな人間活動を生む。活動は人を引きつけ、仮設的流動的建築はさらに増大し、そこにはアメニティーが生まれる。